

1 小単元名 「これからの食料生産とわたしたち」

2 小単元の目標

- 我が国の食料生産には、働く人の減少、環境への影響、安全性、低自給率などの問題点があることを理解し、安心・安全な食料確保のための食料生産のあり方を考えることができる。
- 我が国の食料生産の現状から学習問題を見だし、統計などの資料を活用して我が国の食料生産をめぐる問題を読み取ってまとめるとともに、それらをどのように解決するか、自分の考えをもって話し合いに参加し、様々な考えを受け止めながら考えを深めて、適切に表現することができる。

3 観点別評価規準

観 点	評価規準
社会的事象への 関心・意欲・態度	自分の生活と食料生産とのかかわりをもとに、我が国の食料生産の現状と未来について関心をもち、我が国の食料生産の発展を願ってそのためにどうすればよいかを考えようとしている。
社会的な 思考・判断・表現	我が国の食料生産をめぐる問題について、学習問題や予想、学習計画を考え表現するとともに、環境への影響、輸入食材の安全性、生産者と消費者などの観点をもとに思考・判断したことを適切に表現している。
観察・資料活用の技能	我が国の食料生産の問題について、統計など各種の資料を活用するなどして必要な情報を集めて読み取り、図や文章にまとめている。
社会的事象についての 知識・理解	我が国の食料生産は国民生活を支えていることや、これからの食料生産には、就業者の減少、食品の安全性、環境保全、自給と輸入の関係、生産者と消費者の新しいつながりなど、様々な課題があることを理解している。

4 小単元について

(1) 学習指導要領との関連

本小単元は、単元「わたしたちの生活と食料生産」を3つの小単元に分けたうちの一つであり、学習指導要領では、第5学年の内容(2)に相当する。ここでの主な学習内容は、以下の通りである。

- (2) 我が国の農業や水産業について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを考えるようにする。
- ア 様々な食料生産が国民の生活を支えていること、食料の中には外国から輸入しているものがあること。
  - イ 我が国の主な食料生産物の分布や土地利用の特色など
  - ウ 食料生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の働き

## (2) 教材について

我が国の食料自給率は戦後大きく低下の一途を辿り、昭和40年度にはカロリーベースで73%だった自給率が、平成25年度には39%まで落ち込んだ。食料自給率が低下した要因としては、消費と生産の両面が考えられ、消費面では、米の消費量の減少など食生活の大幅な変化、生産面では、農地面積の減少など国内供給力の低下が背景にあるとされている。

39%という数値は、世界の主要先進国の中でも最低水準であり、不足分を輸入に頼っているのが現状である。仮に食料の輸入ができなくなった場合、現在の食生活を国産のみで維持することは極めて困難になる。中長期的に世界の食料需給が懸念される中、食料として国民に供給されるカロリーの過半を国内で確保することを目指すため、国は平成22年度策定の、「食料・農業・農村基本計画」における食料自給率目標を、「平成32年度までにカロリーベースで50%にする」とした。この50%という数字は、かなり高いものである。しかし、国内の食料供給力を高めるため、関係者の最大限の努力等を前提として初めて可能となる目標として設定された。無論この目標は、政府や行政、企業、生産者ばかりではなく、国民を含めた我が国全体が一丸となって取り組むべき課題でもある。

そこで本単元では、食料生産をめぐる課題や、食料自給率を向上させるための取り組みについて学習を進めていく。食料自給率の現状をつかむときには農林水産省のホームページを、食料自給率を向上させるためのより広い取り組みを調べるときにはフードアクションニッポンのホームページを、それぞれ活用したい。

また、本学級の児童は、3年生で千葉市のにんじん生産について学習したとき、千葉市農政課、保健体育課、JA 千葉みらいが連携した「生産者による出張授業」を受けている。農政課では、耕作放棄地の解消に向けた利活用の推進や、法人等の農業参入支援など、教科書に資料として掲載されていることを実際に取り組んでおり、児童に現実感をもたせることができると考えられる。さらに学区の近くには、県内最大級の農産物直売所である「しょいか〜ご千葉店」があり、半数の児童が実際に行ったことがあった。しょいか〜ごでは、消費者と生産者の交流の場を提供し、地産地消を推進している。こうした経験や地域素材の存在もいかしていきたい。

本単元においては、食料生産や食料自給率という大きな課題の中に、千葉市で行われている取り組みを組み入れることで、児童が社会事象を理解する足がかりをつくりたい。そして、世の中を知ることや社会科の学習をより好意的にとらえ、身近な問題に関心をもち、考えていこうとする資質や能力をこの学習を通して身に付けさせたい。

(3) 児童の実態 (男子10名 女子13名 合計23名)

① 社会科の学習は好きですか。

好き	まあまあ好き	あまり好きではない	嫌い
7名	9名	6名	1名
〈主な理由〉 ・世の中のことがいろいろわかるから (9名) ・大人ががんばっていることがわかるから ・大人になって役立つと思うから ・自分の興味があることがあるから ・最近、社会科がわかるようになったから ・動画があるから ・なぜかわからないがやる気が出るから		〈主な理由〉 ・難しい (3名) ・よくわからないところがある (2名) ・覚えることが多い (2名) ・歴史などが嫌い ・工業とか鉄とか商業、漁業、農業のことがつまらない ・都道府県の名前を覚えたりするのが苦手	

② 社会科で関心や意欲が高まるのは、どんな学習活動をしているときですか。(自由記述)

<ul style="list-style-type: none"> <li>校外学習で見学するとき (16名)</li> <li>みんなで話し合うとき (5名)</li> <li>ノートに書くとき (2名)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>映像や動画を見るとき (7名)</li> <li>見学先で働いている人の話を聞くととき (3名)</li> </ul>
---	--

③ 食べ物に関するニュースで知っていること、覚えていることはありますか。

<ul style="list-style-type: none"> <li>上海福喜食品公司に関連すること (7名)</li> <li>豆アジのパックの中にフグが混入していたこと (5名)</li> <li>どこか学校で食中毒が起きたこと (3名)</li> <li>冷凍餃子に薬品が混入していたこと</li> <li>冷凍食品の中に針が混入していたこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アクリフーズの農薬混入事件</li> <li>食品の値段が上がったこと</li> </ul>
---	---

④ 「食料自給率」という言葉について。

聞いたことがあるし 意味もだいたい知っている	聞いたことはあるけど 意味はよくわからない	全く聞いたことがない
1名	8名	14名
↳ 意味についての回答欄に「食べ物のお金や生産の割合」と記述		

⑤ 日本でたくさん作っていそうな食べ物を3つ考えてみよう。

<ul style="list-style-type: none"> <li>米 (16名)</li> <li>にんじん (10名)</li> <li>リンゴ (3名)</li> <li>豆 (2名)</li> <li>マグロ (2名)</li> </ul> その他 野菜類10名 果物類5名 穀類2名 肉魚類2名
---

⑥ 日本がたくさん輸入していそうな食べ物を3つ考えてみよう。

<ul style="list-style-type: none"> <li>バナナ (13名)</li> <li>肉 (7名)</li> <li>小麦 (2名)</li> <li>鮭 (2名)</li> <li>マンゴー (2名)</li> </ul> その他 野菜類3名 果物類4名
---

※⑤、⑥とも「そう考えた理由」については省略します。

⑦ あなたは「しょいかーご」に行ったことがありますか。

ある 13名	ない 10名
<p>↓ どんな様子で、どんなふうに思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜がたくさん売っていてすごいと思った。</li> <li>・花とか野菜、果物とかがいっぱいあってすごいと思った。</li> <li>・いろいろな花や野菜や果物がいっぱい売っている。</li> <li>・スイカや栗やブドウやいろいろなものがあつた。</li> <li>・すごく広かつた。色がきれいな野菜が売つていた。</li> <li>・大きな倉庫みたいで、野菜などがたくさんある。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人がいっぱいいた。</li> <li>・試食がいっぱいあつた。</li> <li>・覚えていない（3名）</li> </ul>

「社会科の学習は好きか」という質問に対する答えの理由から、本学級の児童の多くは、社会生活について学ぶことを好意的にとらえていると言える。一方で、「まあまあ好き」の理由の中には、かなり消極的な理由が書かれているものもあつた。また、「あまり好きではない」「嫌い」と答えた児童でも、「食べ物に関するニュースで知っていること」について5名の児童が記入しており、世の中のことを知ることに、全く関心がないわけではないと言える。そこで、単元の前半で食料自給率の問題について丁寧に扱い、自分たちの食生活に直結した問題であることを認識させ、児童一人一人に学ぶ必然性をもたせたい。ただし、食料自給率について知っている児童は一人もいなく、その内容は、児童にとってまさに「難しい」「よくわからない」ものであると予想される。これについては農林水産省のホームページに子ども向けの資料があるので、それを活用したい。

#### （4）小単元で育てたい力

本学級の児童は、3年生で地域のスーパーマーケットを見学したとき、食品の産地調べをしており、自分たちが食べているものの中には、輸入されたものが多いということは知っている。しかし、それはあくまでも地域のスーパーマーケットという氷山の一角の事象である。食料自給率について知っている児童が一人もいないということからも、社会全体やその裏側まで見渡し、考えることの大切さには、まだ十分に気付いていないと言える。

そこで本小単元では、食生活という身近なテーマから、社会生活について広く学ぶ意識を高めていきたい。そして、これからの食料生産について、環境への影響や消費者の安全、食料の自給など様々な世の中の仕組みを調べたり考えさせたりすることで、身近な問題を自分のこととして考え、よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を育てていきたい。

## 5 主題との関連

### (1) 視点3-② **子どもの「問い」を引き出すような社会事象との出合わせ方の工夫**

「つかむ」過程で、割合を重視して資料を提示していく。児童は「輸入されたものが多い」ということを、スーパーマーケットに並んでいる食材の話であると認識していると思われる。そこで30～40年ほど前と現在の食生活を比べると、ファミリーレストランなどでよく見かける洋風メニューの、一品ごとの自給率がわかる資料を見せることで、何気なく食べている料理にも輸入されたものが多く含まれていることをつかませ、児童の「知識」や認識にゆさぶりをかけたい。

また、児童は「食料輸入ができなくなったら食卓に並ぶ料理がどうなるか」ということは考えたことがないだろう。そこで日本の食料自給率の現状について調べた後に、農林水産省のホームページにある、食料輸入ができなくなった場合の食事の例を提示する。それを見れば、低自給率、高輸入依存がどういう意味をもっているのか実感でき、食料自給率の現状は自分たちの食生活に直結した切実な問題であると十分に感じるだろう。そこから学習問題を立て、解決への見通しを持たせるなかで、具体的な方策を身近なところからも学ばせるようにしたい。

### (2) 視点3-④ **人の働きから学ぶ学習の展開**

食料自給率を向上させる取り組みを調べていくにあたって、児童が3年生の時に関わった千葉市農政課の方をゲストティーチャーに招き、農政課ではどんな取り組みをしているのか、またその取り組みの目的や思いを話してもらおう。

児童は前時までに、日本全体の食料生産についての課題や、食料自給率が低下した要因などを学習する。しかし、そこから「日本の食料自給率を向上させるには、どうしたらいいか。」と考えようとしても、スケールの大きな問題であるため、思い浮かばない児童が多いと予想される。あるいは、「農地を増やす。」「働く人を増やす。」というように、個々の要因を反対にした、他人事のような答えばかりになってしまうと考えられる。

また、食料生産をめぐる課題を解決したり、食料自給率を向上させたりするための取り組みにはどんなものがあるか調べていくときに、予備知識がなければ、教科書やインターネットを開いたとしても、「わかりません。」「ありません。」と思う児童が多いだろう。あるいはそれらしい取り組みを見つけたとしても、それがどうして食料生産をめぐる課題を解決したり、食料自給率を向上させたりすることにつながるのかまでは、十分に理解できないだろう。

児童が3年生の時に関わった千葉市農政課の方から、自分たちが住む千葉市ではどんな取り組みをしているのか話してもらえば、児童も関心をもって聞くことができ、印象も大きいと考える。その上で、日本全体に視野を広げて調べ学習を進めていくことで、「日本全体でも同じようなことはしていないだろうか。」とか「農政課の人が言っていたことは、これにも当てはまるのではないだろうか。」など、調べる視点やキーワードを明確にもつことができると考える。さらに、実際に千葉市の農業や農家の方と関わっている人から直接話を聞く機会を設けることで、自分たちにできることは何かについて考える意欲につなげていきたい。

6 知識の構造図

中心概念

我が国の農業や水産業は、国民の食料を確保する重要な役割をはたしており、それらは国土の環境保全とも深いかかわりをもって営まれているものである。  
食料生産についての課題は、政府や行政、企業ばかりではなく、国民を含めた我が国全体が一丸となって取り組むべきものである。

具体的知識



食料生産をめぐる課題を解決したり、食料自給率を向上させたりするための取り組みについて、今のわたしたちにもできることがある。自分の将来の食生活につながっていると意識をもって社会に関わろうとする。

つかむ → 調べる → いかす

目指す子どもの姿

社会生活について広く学ぶ意識を高め、日本の食料生産や食料自給率に関心を持ち、これからの食料生産について、環境への影響や消費者の安全、食料の自給など様々な世の中の仕組みが分かり、食生活という身近な問題を自分のこととして考え、社会にかかわろうとする姿。

7 指導計画 (7時間扱い)

過程	時数	児童の主な学習活動	教師の指導と手立て・評価
つかむ	1	○30～40年ほど前と現在の食生活を比べ、輸入された食料の存在をつかむ。	◇自分たちの食生活について、興味や関心をもっている。(関・意・態)
	2	○日本の食料自給率について知り、食料の輸入ができなくなったときの食事の例を見て思ったことをもとに学習問題を設定する。	○視聴覚教材を使用し、食料自給率の現状を児童にわかりやすく伝える。 ◇これからの日本の食料生産について、学習問題を考え、自分の言葉で表現している。(思・判・表)
		日本の食料自給率を向上させるには、どうしたらいいだろうか。	○予想と学習計画を立てる。 ・日本の食料生産の現状を調べる。 ・取り組んでいる人を調べる。 ・取り組みによる変化を調べる。
調べる	3	○土地利用の変化、耕作放棄地の存在、農業や漁業で働く人の減少など、日本の食料生産についての課題を調べる。	◇様々な資料から、日本の食料生産についての課題や食料自給率が低下した要因を読み取っている。(観・技)
	4	○食料生産についての課題に対して、千葉市の農業協同組合や農政課ではどのような取り組みをしているのか調べる。 (本時)	○千葉市で行われている取り組みについてゲストティーチャーから話を聞くことで、日本全体の取り組みを調べて理解する予備知識をもつ。 ◇千葉市で行われている取り組みについて理解している。(知・理)
	5	○前時で学習したことについて、深く追求したいことを調べる。	◇各地の直売所の取り組みや農業法人の事業の情報を集めている。(観・技)
	6	○フードアクションニッポンなど、日本全体で取り組んでいることを調べる。	◇日本全体で行われている取り組みについて理解している。(知・理)
まとめ ・ いかす	7	○これからの食料生産についてこれまで学習してきたことをいかし、世の中のことに関心をもつことや、食べ残しを減らす、地産地消を意識するなど、将来の食生活のために自分にできることを考える。	◇食料生産についての課題を解決するためには、政府や行政、企業、生産者ばかりではなく、自分たち一人一人の関わりが必要であることに気づき、自分の言葉で表現している。(思・判・表) ◇食料生産についての課題を解決するために、自分にできることをしようとしている。(関・意・態)
		普段の食生活に関心を持ち、わたしたちにできることをしていくことが、食料生産の課題の解決や食料自給率の向上につながっていく。	

## 8 本時の指導

### (1) 目標

○食料生産についての課題に対して、千葉市の農業協同組合や農政課ではどのような取り組みをしているのか、理解することができる。 (知識・理解)

### (2) 展開 (4/7時間)

時配	学習内容 (○主な学習内容)	教師の指導と支援 (○指導・留意点 □教材 ◇評価)
0	<p>1 前時の学習を振り返り、食料生産についての課題を確認する。</p> <p>2 学習問題を確認する。</p>	<p>□食料生産についての課題をまとめた掲示物。</p> <p>□「生産者による出張授業」のWeb ページ。</p>
	<p>千葉市のJAや農政課では、食料生産についての課題に対して、どのような工夫や努力をしているのだろうか。</p>	
5	<p>3 しょいか〜ごのイベントや店内の様子がわかる資料を見て、しょいか〜ごの取り組みを話し合い、考えたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「作っている人に実際に会って話すことができる。」</li> <li>・「どんな人が作っているのかわかるので、安心して買える。」</li> <li>・「その日採れた新鮮な野菜が買える。」</li> <li>・「農薬をあまり使わない安全な野菜が買える。」</li> </ul>	<p>○3種類の資料を用意する。班を作り、一つの班で一つの資料について考えさせる。話し合いが進んでいない班には、農家の人が書いた宣伝文句などに注目するよう助言する。</p> <p>□しょいか〜ごの店内やイベントの様子についての資料。</p> <p>○考えがまとまった班にはホワイトボードとマーカーを渡し、班で考えたことを書かせる。また、それを自分のノートにも書かせる。ホワイトボードは黒板に貼る。</p>
15	<p>4 しょいか〜ごの方の言葉をまとめたプレゼンテーションを見て、しょいか〜ごの目的や役割についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・輸入農産物に負けない、安全、安心、新鮮な農産物を食べてもらう。</li> <li>・農家の人が、生涯現役で農業を続けられる場を作る。</li> <li>・様々なイベントを開いて、生産者と消費者が交流する場を作り、消費者に農業に関心をもってもらう。</li> <li>・これらを通して地産地消を進め、地域の食料自給率が向上することを目指している。</li> </ul>	<p>○自分たちが考えたことが、どのように関係しているか注目してプレゼンテーションを見るようにする。</p> <p>□しょいか〜ごの方の言葉をまとめたプレゼンテーション資料。</p> <p>○しょいか〜ごの目的や役割をノートに書かせる。</p>



25	<p>5 千葉市農政課の方を招き、農政課で取り組んでいることについて話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンペーンや出張授業を通して、地産地消を推進している。</li> <li>・会社などが農業を始めるサポートをしている。</li> <li>・耕作放棄地をなくすために、農業を始めたい人に遊休農地情報を伝えている。</li> </ul>	<p>○地産地消をキーワードにして、児童に農政課の取り組みに興味をもたせる。</p> <p>○農政課の方には、どんな思いで取り組んでいるかや、千葉市の農業を持続的に発展させていくことで、食料生産の課題の解決を図っていることを話してもらうようにする。</p> <p>○話が終わったら、農政課の方の話をまとめて黒板に書き、ノートに書かせる。</p>
38	<p>6 本時の学習を振り返り、まとめと感想を書く。</p> <div data-bbox="373 689 1401 792" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>千葉市のJAは地産地消を進めている。農政課では地産地消の他に、農業を始める人が増えるようにするための取り組みをしている。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・しょいか〜ごで買い物することは、地産地消につながっていると分かった。</li> <li>・3年生の出張授業には、にんじんについて教えてもらうこと以外に、実は地産地消を進める目的があったと分かった。</li> <li>・農政課の取り組みで、千葉市で新しく農業を始めた人が実際にいて、よかったと思った。</li> </ul>	<p>○自分たちが住んでいる千葉市では、地産地消の推進や、耕作放棄地の利活用、法人等の農業参入支援などの取り組みをしていることを知って、感じたことや考えたことを書くよう助言する。</p> <p>◆食料生産についての課題に対して、千葉市の農業協同組合や農政課ではどのような取り組みをしているのか、理解している。 (知・理)</p>